

平成 31年

3 月号

No.593

法音

今月の
ご法話

感動と堪忍が運命の扉を開く

日蓮宗 法音寺



知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音

平成三十一年三月号「593」

■目次■

【信仰の指針】かんぶん 感奮 心をふるい立てましょう 1

【朝のこない夜はない】

感動と堪忍が運命の扉を開く

山首 鈴木正修 2

- 春のお彼岸です 17
- 有縁の支院・布教所にご自由にご参詣ください 18
- 育成道場に参加しませんか 20
- まんが・法華経七諭の話・三車火宅の譬え 21
- 三車火宅の譬えについて 29
- とこのはの記 お曼荼羅のこと 32
- のりのね体験 いま・昔 36
- 支院だより 40
- 福祉に生きる 児童養護施設・名古屋養育院の実践 72
- 日本福祉大学・学内プレゼンテーションコンテスト「ふしAWARD2018」開催 80
- 賛助員ご芳名 82
- 幸せの種まき／編集後記 84
- 連載まんが・ひまわり・74 反射する心 85
- 書籍のご紹介
- 法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字 信仰の指針 山首上人さま 書

表紙写真・ウメ

掲載写真 表紙・信仰の指針・3～17頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

感かん奮ぶん心をふるい交てましよう

日教友



レンギョウ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

感動と堪忍が運命の扉を開く

AI（人工知能）がもうすぐ人間の知能を完全に追い越すと言われています。

医療の画像診断の分野では人間よりAIの優位性が声高に言われています。将棋や囲碁、チェスではもうまったく人間は太刀打ちできません。将棋の名人が「AIは私達の予想だにしない手をうつ」と言っていました。以前は将棋のAI、ポナンザに膨大なデータを入力していましたが、今はポナンザどうして将棋をし、どんどん進化しているといます。

以前、NHKで『AIに聞いてみた どうするのよ 日本』という番組がありました。この中で「健康寿命を延ば



すには？」という質問をA-1にしたのです。

日本人の平均寿命は、男性81歳、女性87歳です。これに対して、健康寿命は男性72歳、女性75歳です。健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間です。この差が十年前後あるのです。この最後の十年程にかかる医療費は一人の人生の全医療費の半分に当たるといえます。この間の年間の医療費、介護費はなんと5兆円にのぼるといいます。

今や健康寿命を延ばすことが国を挙げての大命題なので

この質問に対してA-1が41万人の高齢者のアンケート調査結果を分析し、出した答えが、私達が予想だにしない「運動よりも食事よりも読書が大事」という答えでした。

番組スタッフは早速、健康寿命日本一の山梨県に取材に行きました。



実は、なぜ山梨県民の健康寿命が長いのかは県の担当者もわかっていなかったのです。

そこでわかったのは、山梨県は人口に対する図書館の数が断トツで全国1位、学校司書配置率も全国平均が59%なのに對して山梨県は98%と高く、老若男女を問わず読書好きが多いということです。これに對して、運動実施率は、山梨県は全国最下位だと言います。このAーの分析を聞いて、山梨県の健康福祉課の職員の方々もびっくりしたそうです。

国民教育の父と仰がれた森信三先生が「読書は心の食物だ。肉体を養うために毎日の食事が欠かせないように、心を豊かに養う滋養分として読書は欠かせない」「真の読書は、人がこれまで体験してきた人生の内容と意味を照らしたし、統一する光です。私達は平生、読書を怠らぬこと



によって、常に自分に対する問題を深め、それによって正しい実践のできる人間になることがなにより肝要です。言い換えれば、読書、内観、実践という段階の繰り返しは、人間が進歩し、深められていくプロセスとも言えます」とおっしゃっています。

碩学の思想家・安岡正篤氏も「人物」を磨くための条件として「魂のこもったすぐれた書物を読むこと」を挙げています。

中国の宋の時代、程伊川という大儒学者がいました。程伊川は、仲間の讒言にあつて島流しになりました。十年の後、冤罪とわかり都に戻ることができました。普通、島流しになると、人間は心身ともに弱り切ってしまう。しかし、程伊川は威風堂々としていたのです。弟子達が「先生、十年も島流しになると普通は憔悴しきって見る影もな



く、廃人同様に
なる人間もあると聞きます。それなのに先
生はどうしてそんなに堂々として活
力にあふれておられるのですか」と聞くと「自分はこの十年、真剣に骨身を削って勉強してきた。『易经』やその他、聖賢の教えに通曉した。その学びの力だ」と答えました。

昨年
の大河ドラマ『西郷どん』の主人公、西郷隆盛は二回島流しにあっています。藩主の島津久光の逆鱗にふれ、36歳の時に徳之島に流され、その後、さらに沖永良部島に遠島となりました。沖永良部島は鹿児島から536キロ離れています。当時としては気の遠くなるような距離です。沖永良部島に流されるような人は死刑に次ぐ重罪でした。西郷はその島に着くなり、戸も壁もない獣の檻のような吹きさらしの獄舎に入れられました。そして一族郎党を含め、西郷家のすべての財産が没収されました。常人なら絶望に



打ちひしがれても不思議のない状態で、西郷は獄舎に三つの行李を持ち込みました。その中には800冊の本が入っており、中には佐藤一斎の『言志四録』や王陽明の『伝習録』などがありました。西郷が友人の桂右衛門に送った手紙があります。

「徳之島より当島（沖永良部島）へ引き移り候処、直様牢中に召し入れられ却って身の為には有難く、余念なく一筋に志操を研ぎ候事にて、益々志は堅固に突き立て申す事にて、御一笑成し下さるべく候」

これは、牢屋に入れられたことはかえってありがたい。これによって一筋に志を磨く学問ができる。私の志は益々強くなっていきます。何も心配ありません。ということですよ。西郷は、この島流し中の学問によって心魂が練られ、人間がより大きくなったのです。真剣な読書・学問というものは、人間の心身を鍛え上げるのです。



児童文学作家の椋鳩十さんという方がおられました。木曾の伊那谷という小さな村の出身です。三十年ぶりに同窓会に行かれた時のことです。久しぶりに会うと、初めは誰が誰だかわかりません。話していく内にだんだんわかってきました。一人だけどうしても思い出せない同級生がいました。背が低く色が黒く、しかし威厳があるのです。隣席の人に聞くと「あんな有名なやつを忘れたのか。ほら、しらくもだよ」。椋さんは、シエツシとなりました。しらくもとは頭に白い斑点がでる皮膚病のことです。この生徒はその病気のことでいじめられ、勉強もできず、放課後も一人校庭の隅でポツンとしていたといえます。それが今はものすごい風格をにじませています。聞けば伊那谷一の農業指導者として皆から信頼されているといえます。本人に「何かあったのか」と聞きました。すると「皆に聞かれるが、実はあったんだよ。本当に少年時代は毎日がみじ



めでつらかった。結婚して子どもができて、子どもには絶対あんなつらい思いはさせたくない」と思って、田畑を売ってでも上の良い学校にやろうとしたんだ。でも俺と一緒にでぜんぜん成績がパツとしないんだ。まったく勉強するふうもないんだ。ところが高校二年生の夏休みに図書館で分厚い本を三冊借りてきたんだよ。やる気になったのかなあ」と思ったら、その本を枕にして寝るだけなんだ。まったく読むふうがないんだ。でもそこで思ったんだよ。子どもに本を読めと言うなら、まず自分が読まないといかんなど。今まで農作業に追われて本など開いたこともない。自分も読まなきゃいかんと思って、息子が借りてきた三冊の分厚い本を読み始めたんだ。最初はつらかったが、だんだん引き込まれて、感動が込み上げてきた。結局三回も繰り返して読んだんだ」と言いました。その本はロマン・罗兰の『ジャン・クリストフ』です。



『ジャン・クリストフ』はロランのノーベル文学賞受賞作で、音楽家クリストフが人生の苦悩と歓喜を経験しながら、魂の成長をとげる過程を描いた一大叙事詩です。ロランの熱愛したベートーベンがモデルと言われています。

主人公ジャンの苦悩と運命が、しらくもにはわがことのように思われたのです。しかしジャンは自分とは違っていました。ジャンはどんな苦しみに落ち込もうが、必ず這い上がってきます。絶望の底に沈んでも、また這い上がってくるのです。ジャンはまるで炎のように生きている。あんなふう生きてみたい。としらくもは思いました。自分も何か燃えるものを持たなければいけない。自分は農民だ。だから自分は農業に燃えなくてはいけない。と思、農業の専門書を読みあさりました。そして農業専門委員の家を訪ねては、わからないことを聞き続けました。猛烈な勉強の結果、しらくもは伊那谷一の農業指導者になり、誰



からも信頼される人物になったのです。
読書の感動というものは人間を変えます。

筑波大学の村上和雄先生が「遺伝子には好ましい遺伝子と好ましくない遺伝子がある。感動することでも好ましい遺伝子がスイッチオンになり、好ましくない遺伝子がスイッチオフになる」と言っておられます。ガンに例えると、感動すると、ガンを増幅させる遺伝子がスイッチオフになり、ガンを抑える免疫力の遺伝子がスイッチオンになるそうです。

村上先生が、恩師である京都大学総長だった平澤興先生の話を紹介されています。

平澤先生は京都大学の医学部に入り、意気揚々として、一日4時間の睡眠で勉強を頑張りました。ところが、頑張



りすぎてノイローゼになり、幻聴が聞こえ、幻覚が見えるようになってしまう。静養するように言われ、故郷の新潟に帰りました。冬の雪原を一人悩みながら歩いていました。すると突然ベートーベンの言葉がドイツ語で聞こえてきたのです。平澤先生はベートーベンの伝記をドイツ語の原書で読んでいたのです。その原書に書かれていた言葉が、幻聴のように聞こえてきたのです。

「たとえ肉体にいかなる欠点があろうとも、我が魂はこれに打ち勝たねばならぬ。28歳：そうだ、もう28歳になったんだ。今年こそいよいよ本物になる覚悟を決定せねばならぬ」

平澤先生は雷にでも打たれたように目が覚めて「これしきのことがなんだ。そうだ、ベートーベンは音楽家にとっては致命的な耳が聞こえないというハンデを乗り越えたんだ。無能でも五体満足な私が、こんなことでどうする。絶



対に打ち勝ってみせる」という決心をされて、ノイローゼ
がいつぺんに治ってしまったのです。ベートーベンの言葉
によって伝記を読んだ時の深い感動がよみがえったのです。

最後に二人を感動させたベートーベンについて少しお話
をします。

ベートーベンは20代後半から耳が悪くなり、30歳を過ぎ
たころにはほとんど聞こえませんでした。耳が聞こえない
というのは音楽家にとってこれ以上ない苦しみだったと思
います。またベートーベンは貧乏でした。恋人との別れも
ありました。

ベートーベンは自殺をしようとしたこともあります。30
歳の時に『ハイリゲンシュタットの遺書』というものを書
いています。

「堪忍。それはいまや私が案内者として選ばねばならぬも



のだった。私は自分が生まれたことを呪いさえした。けれどもプラターク英雄伝が私を堪忍に導いてくれた。なにもあれ力の及ぶかぎり、我が運命に戦いを挑もう。堪忍の徳のみが幸福を与える。金銭はだめだ。我が艱難の日々に、この不幸な自分を支持してくれるのは堪忍の力である」

ベートーベンは堪忍を誓って自殺を思いとどまったのです。

『ジャン・クリストフ』を書いたロマン・ロランは『ベートーベンの生涯』という本も書いています。その中でロランは、ベートーベンが耳が聞こえなくなっから作曲した交響曲を、傑作の森と呼んでいます。その代表作が『運命』です。

『運命』の始まりは、皆さんご存知のダダダーンです。弟子が「冒頭の4つの音は何を示すのですか」と尋ねると



「これは運命が扉をたたく音だ」とベートーベンは答え
ました。これが題名の由来だそうです。曲を聴くと暗い始
りからだんだんと明るくなっていきます。これはベートー
ベン自身の運命を表しているのでしょうか。ベートーベン
は「我が人生は苦悩をつきぬけて、歓喜にいたるのである」
と言っています。殊に最後の交響曲、第九の第四楽章は
『歓喜の歌』です。ベートーベンは堪忍の誓いによって、
苦悩をつきぬけて歓喜にいたったのではないのでしょうか。
またベートーベンは作品を作るときに「多くの人々に幸
せや喜びを与える。それ以上に崇高で素晴らしいことはな
い」と言っていたそうです。
ベートーベンは堪忍の人であり、慈悲の人でした。楽
聖といわれたのも宜なるかなです。



春のお彼岸です。

ご先祖さまに感謝の誠を捧げましょう。

法音寺本山は

三月二十一日(木・祝)午前十一時から

春季彼岸会の法要が行われます。

皆さまのご参詣をお待ちしています。

◆今月の山首上人さまご親修日程

佐屋支院	3月3日(日)	岐阜支院	3月4日(月)
上野支院	3月10日(日)	郡上八幡支院	3月22日(金)
四日市支院	3月24日(日)	和泉支院	3月31日(日)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	3日・10日・23日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	12日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	10日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・23日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	3日・9日・23日	愛西市大井町浦田面296	☎(0586)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	4日・14日・18日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・10日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	2日・13日・22日・24日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・10日・21日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・21日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	3日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	10日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	3日・22日・31日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	9日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	3日・7日・24日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・17日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	9日・24日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	2日・17日・24日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	9日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	3日・15日・17日・21日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445
筑後布教所	10日・24日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	10日・24日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・21日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	11日・24日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

日時／ **4月14日(日)**
8:00～15:30 (希望者は前泊可能)

対象／ 15～35歳のどなたでも

参加費／ 2,000円
(納経帳に充てさせていただきます)

場所／ **法音寺大本堂**

第49回

育成道場に 参加しませんか

— 主なプログラム —

所作練習

木鉦・おりんの体験をして
読経の所作を学びます。

読経練習

お経の解説と読み方を
学びます。

写経

荘厳なる大本堂での
写経が体験できます。

青年会員体験談

同世代の貴重な
体験談が聴けます。

ご法話

山首上人さま



青年会員
体験談
発表



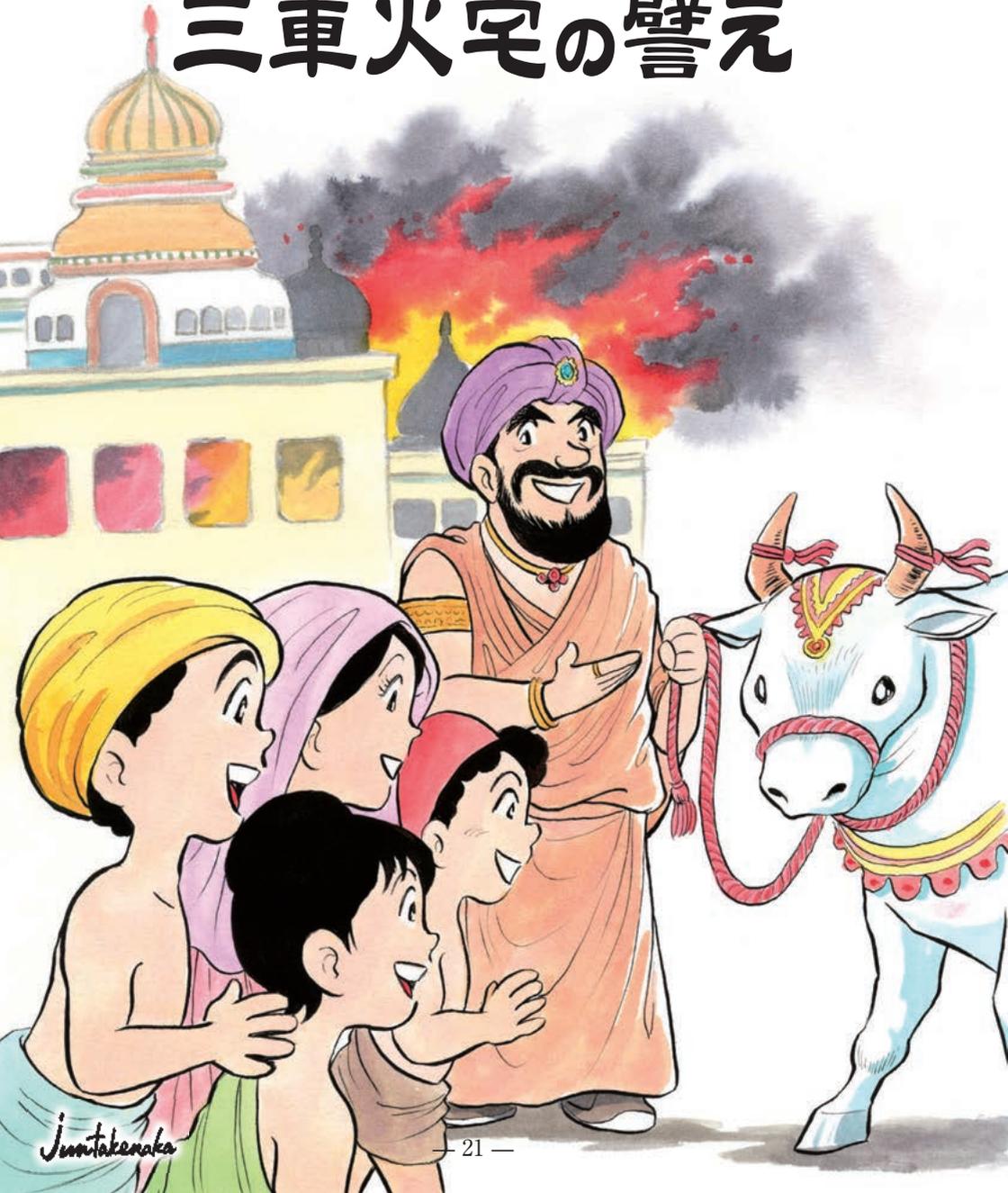
申し込み締め切り／3月17日(日)
お問い合わせ／各支院・布教所まで
青少年育成委員会

ほけきょうしちゆはなし
法華経七諭の話

ひゆほんだい
譬諭品第三

さんしやくかたくたと

三車火宅の譬え



Juntakenaka

靈鷲山に
多くの人が集い
お釈迦さまの説法を
聞いていました

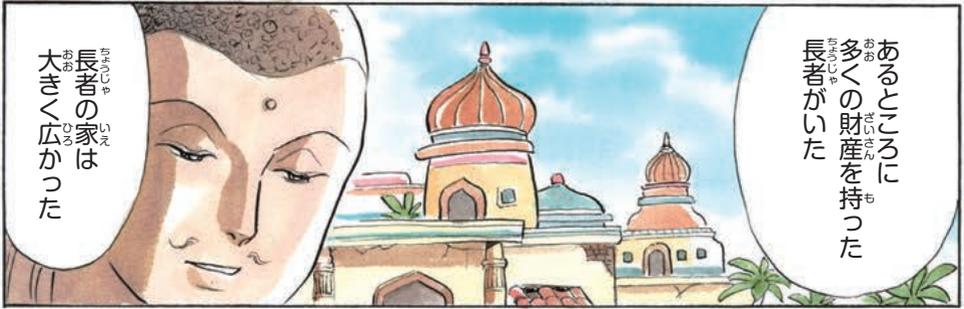
これまで
声聞 縁覚 菩薩のため
さまざまの教えを
説いてきた

これは人々の境遇に
応じて説いたため
すべては仏になるための
方便である

すべての人が平等であり
仏になれることが
今やっと理解できました

しかし
ここに集う者の中には
理解できず疑惑をいだ
いている者もいます
どうか今一度
お説きください

それでは一つ
たとえ話を
しよう



あるところに
多くの財産を持った
長者ちやうじやがいた

長者ちやうじやの家は
大きく広がった



ところが
家は古く
柱は朽ち
壁は崩れ
屋根も傾たがいていた

そこには何百人も
住んでいたが
入口はたった
一つであった



何だ

かか
かか
火事です



御主人ごしゅじんさまあ
大変です



なんだと！
なぜ
連れ出さない!?



なに!?
早くみんなを
避難ひんなんさせろ!
御主人ごしゅじんさま
それが:
お子さん達おこさんたちが
家の中に
残のこってます





みんなで遊んでて
楽しいんだ
ここにいる！



おお！そこか
もうじき火が回る
そこにいたら
死んで
しまつぞ

なに
何？
よくわかんない



火の
恐ろしさを
知らないん
ですよ

…じゅむ…



おーい！
おまえ達
の
乗りたがっていた
珍しい車が
ここにあるぞ！



やったあ

わーい



羊の車や
鹿の車
牛の車だよ！
さあ 出ておいで



ねえ
どこ？
珍しい車…



みんな
よく出てきて
くれた…

良かった
良かった



うわあ

やったあ



羊ひつじの車くるまや鹿かの車くるま
牛うしの車くるまなんかより
ずっと美しく大きな
大白牛車だいびやくんぐるまをあげよう



いいえさうでは
ありません

長者ちやうじやは子こどもの
命いのちを救すくったのです
嘘うそをついたことには
ならないでしょう

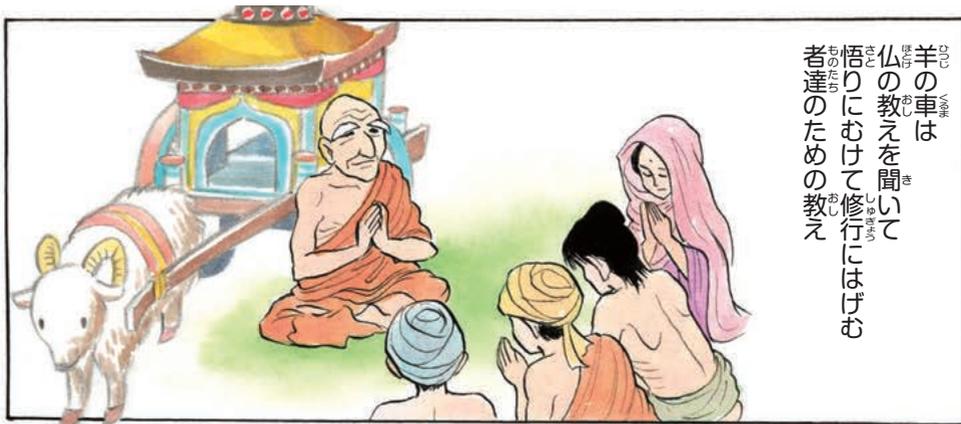


長者ちやうじやは子こども達たちに
羊ひつじの車くるま 鹿かの車くるま 牛うしの車くるまと
いったが
それ以上それいじやうの大白牛車だいびやくんぐるまを与あたえた
舍利弗しゃりふよ この長者ちやうじやは
子こども達たちに嘘うそをついたこと
になるだろうか

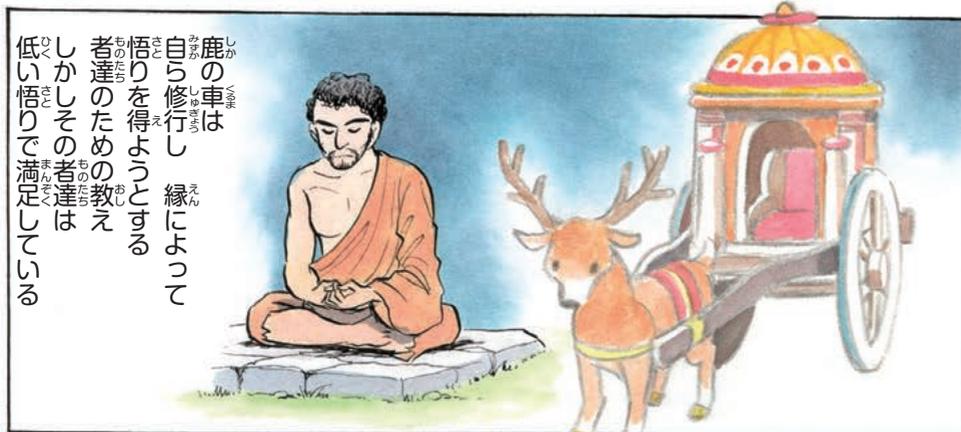


このたとえ話たとえはなしの
燃もえる家は
苦くしみに満みちたこの世界せかい
遊びあそびに夢中むちゆうの子こども達たちは
身みの危き険けんを知らずに
生いきる人々ひとびとのこと…

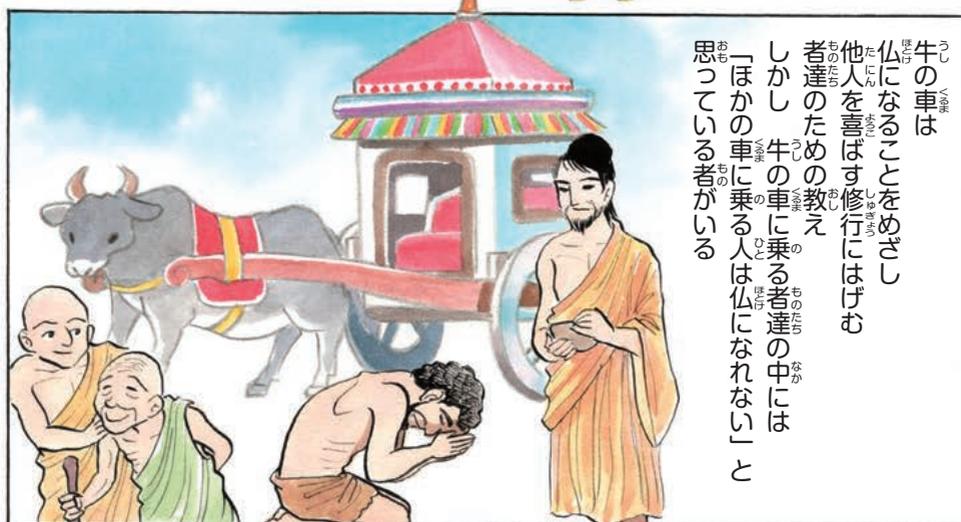
そして
長者ちやうじやは
仏ぼつのことである



羊ヒツの車クルマは
 仏ブツの教オシエえを聞きいて
 悟さとりにおけて修しゆ行ぎやうにはげむ
 者もの達たちのためための教おしえ



鹿しかの車クルマは
 自みづから修しゆ行ぎやうし 縁えんによつて
 悟さとりを得えようとする
 者もの達たちのためための教おしえ
 しかしその者もの達たちは
 低ひくい悟さとりで満まん足ぞくしている



牛うしの車クルマは
 仏ブツにななることをめざし
 他た人にんを喜よろこばす修しゆ行ぎやうにはげむ
 者もの達たちのためための教おしえ
 しかし 牛うしの車クルマに乗のる者もの達たちの中なかには
 「ほかの車クルマに乗のる人ひとは仏ブツになれない」と
 思おもっている者ものがいる

この大きな乗りものを手に入れ
みな幸せに
生きることが出来るのだ

うわあ

すこい

最後に与える宝石で
飾られた車(大白牛車)が
すべての人が仏になれる
真の教え・法華経である

この世は
すべて仏の世界
世の人は
みな仏の子である

これこそが 法華経
永遠に最高の経典である
私がめざしているのは
すべての人を仏にするこゝである

おわり

三車火宅の譬えについて

「三車火宅の譬え」は妙法蓮華経譬諭品第三に説かれています。

人の生活には必ず苦しみがあります。私達は仏さまの教えによって、この苦しみ・悩みを除滅しなければなりません。「三車火宅の譬え」は、その教えの一つです。

ある国に長者がいて、大きな邸宅を構え、大勢の子どもがいました。ある時、この邸宅に火事が起こります。家の中には大勢の子ども達が何も知らずに遊んでいます。長者は大声で「火事だ！外に出なければ危ないぞー」と叫びますが、火の恐ろしさを知らない子ども達は遊び続けています。長者は災難から子ども達を救うために、子ども達の好きな玩具が屋外にあることを知らせます。

「早く家の外に出なさい。珍しい羊車、鹿車、牛車がお前達のものになるぞ」子ども達はこれを聞いて喜び、家の外に飛び出してきました。長者は安心しましたが、子ども達は三種の車がないので長者にたずねます。すると長者は「子ども達よ、三車のことを聞いてよく外へ出てくれた。それでは三車よりずっと美しく立派な、大きな白い牛の引く車をあげよう」と言って、大白牛車を与えるのです。

ここでいう長者は仏さまであり、子ども達は衆生（凡夫）、火のついた家（火宅）は濁悪な世の中を表しています。火事の原因は、三毒（貪り・瞋り・愚痴）です。三毒が蔓延している苦しみの世界が「燃えている家」に譬えられています。そしてその恐ろしさを知らずに生きている私達を仏さまは何とか救い出そうとしてくださるのです。しかし、人々の興味・関心はそれぞれの境遇によってさまざまです。仏さまはさまざまな段階にある人に向け、それぞれの教えを説いてくださいました。三種の車が登場するのは、その状況を譬えたものです。

三車は、仏の教えを実行している声聞・縁覚・菩薩の三段階を表します。人々

はそれぞれの教えに導かれ、燃えている世界から安全な場所へ移動します。しかし「それぞれの教えは（燃えている世界から人々を救い出すための）方便であった」と仏さまはおっしゃるのです。

大白牛車は、〴〵誰もが平等に仏になれる〴〵という最も優れた教え・法華経に譬えられています。法華経を与えられたということは、最高にして崇高な仏界に達する教えを与えられたということです。

この譬え話は単なるエピソードではなく、実際の生活を振り返って解釈すべきではないでしょうか。周囲が燃えているのも知らずに日々を暮らしている私達は、まず貪り、瞋り、愚痴を慎むことを心掛けましょう。必要以上に求めたり、怒ったり、愚痴を言つとそれが火種となり、自分を取り巻く環境が火事になると悟りましょう。そして、法華経を真の教えと信じて三徳を実行するようになりたいものです。

といのほの記

お曼茶羅まんだらのこと

そもそもお曼茶羅は、人々がそこに顕された諸仏・諸尊を礼拝するためにあります。

一般的に、〴〵利益をいただくために礼拝するもの〴〵と思われがちですが、〴〵自分の心を正しく整え、感謝の気持ちを表すため〴〵にあるのです。

「お曼茶羅にはお題目を中心にして、たくさんのお仏さま



の名前が書いてあるわね」

「これは十界の大曼荼羅といってね：

お題目を中心にして、その両脇にお釈迦さまと多宝如来
がいらっしやるんだ」

「インドでお生まれになり、ご入滅されたお釈迦さまの
ことだね…」

「いや、如来寿量品に登場する久遠の本仏、久遠実成の
本師釈迦牟尼仏のことなんだ。多宝如来は、法華経が
真実であることを証明される仏さま…。」

その他、上行菩薩をはじめとする本化地涌の四菩薩、さ
らに文殊・薬王等の菩薩…」

「阿難尊者や目連尊者って、お釈迦さまのお弟子だよね」

「ほら、鬼子母神や十羅刹女という法華経の守護神もい



らっしやるよ」

「あれっ？提婆達多？…お釈迦さまを殺して教団を乗っ取るうとした人だよね…」

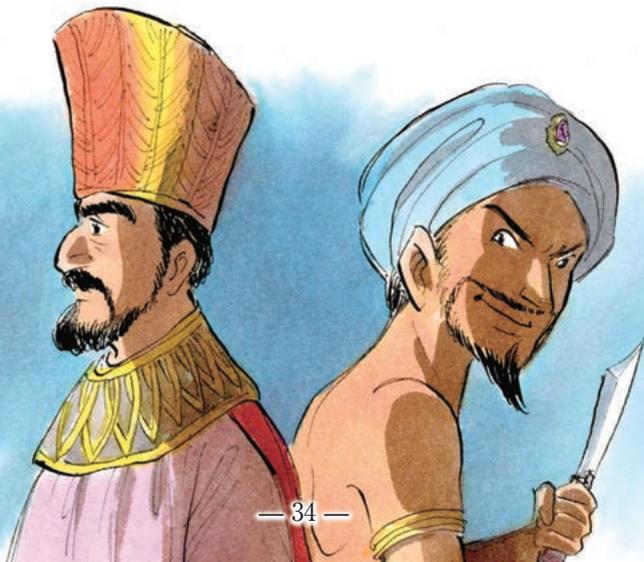
「提婆達多だけではないぞ。よく見ると提婆達多にそそのかされて父王を殺害した阿闍世もいるよ」

「そんな人までお曼荼羅に名前を連ねているのはどういうことなの？」

「これは、どんな悪人でも妙法蓮華経の光に照らされて成仏できる」という意味なのさ」

「そういう理由で、仏さま・神さま・菩薩さまがいるだけでなく、地獄の境界にいる人まで書き頭されているんだね…」

「でもね、地獄界や餓鬼界にいるような人にも、すべ

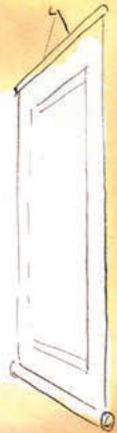


ての人に仏性があって仏になれる反面、下に向かう方向もある」とお上人さまはおっしゃっていたよ」

「好ましい方向だけではないということだね」

「だからこそ、今を大切にしていって、人を喜ばせていくことがいかに大切かがわかるだろう。そういう心でお曼荼羅を見ていると、今自分はどういう心なのだろうか。果たして地獄にいるのではないだろうか。餓鬼の心ではないだろうか。と反省する材料にもなるね」

お曼荼羅を拝むのは、移ろいやすい自分の心を反省し、精進の誓いとする」という意味において大変意義深いことです。法華経に顕された仏さまのみ心を自らの心にして少しでも実行に移していきましよう。



のりのね体験

いま・昔

妙法との出会い

四日市支院 奥村 邦夫（昭和63年）

私の家は代々臨済宗・京都妙心寺派の檀家でしたが、昭和23年に私が四日市へ居を移しました折、家内の弟が熱心な法音寺の信者でしたので、ときどき義弟に誘われては、新町の丸川屋さん（服部様宅）で開かれていた法座へ出かけてお話を聞かせていただいております。

その頃はお話を聞いても、あまり気にも留めていませんでしたが、昭和26年に病弱だった義弟が急に亡くなりました。

その時、不思議なことが私の体に起こりました。義弟が亡くなった日から三日ばかり私の食欲がまったくなくなり、お茶も水も喉を通らなくなりました。困り果てて服部とみ先生にお尋ねしたところ、先生は「あれ程一生懸命だった義弟さんが、あなたに、妙法を受

け継いでやっていってほしい」と言っている報せですよ」と言われました。まだ半信半疑でしたが、その場でお誓いを立て、義弟のご供養をお願いして帰宅すると、不思議なことに今まで胸につかえていた物がいっぺんに取れ、ふつうに食欲も出て、雨上がりの快晴のごとく、すがすがしい気分になりました。

それから、私の新町通いが始まりました。一日に一度は必ず、先生のお話を聞かないと落ち着かず、多い時は日に二度、三度とお邪魔していました。しかし、決して不快な顔をされず、相談に応じてくださった先生の優しいお顔が今も目に浮かびます。

振り返って思いますに、当時はお願いがばかりで、どれ程先生にご心労を患わせたことかと申し訳なく思っています。先生にご教化いただきましたことは数限りなくあります。そのご恩に報いるには、先生のように和顔愛語、真心をもって、困っている方、悩みごとのある方などに正しい助言ができますよう、慈悲・至誠・堪忍の三徳の教えをしっかりと守り、一層行学に励んでいくことを心に誓っています。

妙法に守られていることに感謝

東京支院 弓削多美津子（平成30年）

数年前、私の家に毎月のように保険会社の女性外交員が来ていました。いつ誰が来てても私はお寺の話をするので、その方はとても興味を持って話を聞いてくださいました。ある日その方が「新車を購入したので、お祓いをしていただきたい」と言うので、早速お寺に電話してその旨をお伝えしたところ、すぐお祓いに行ってくださいました。

ここからは、その方のお話です。

「ある月末の忙しい日のこと。その日は、結構大きな契約が取れ、お得意さんの集金も済ませ、会社に戻るため車を走らせていました。すると一台のトラックが接近して来て、運転手が何か叫んでいました。私は、いつものひやかした〴〵と思って無視しました。信号で停車すると、また別の車の運転手が、私に向かって何か言ってくるのです。私は、みんな単に私の車に興味があるだけなのだろう…〴〵と思いました。ところが、ふとお店のショーウィンドウに映った自分の車が目に入り、血の気が引きました。お客さまからお預かりした契約書と集金したお金を車の上に乗せたのをすっかり忘れ、そのまま車を走らせていた

のです。大切な契約書とお金が風でバタバタめくっていました。心臓が縮む程ビックリして路肩に車を寄せましたが、しばらくはドキドキが止まりませんでした。トラックの運転手達が叫んでいたのは、その状況を私に教えようとしてくれたのでしょうか。当日は中山道をかなりのスピードを出して走っていましたが、なんと『法音』の冊誌が書類とお金を押さえにくれていたお陰で、一枚も紛失することなく助かったのです。

『神さま、仏さま、法音寺さま、本当にありがとうございました。』

私達は、法音寺の妙法の傘に、日々守られていることをありがたく思います。お寺で頂戴するお水一杯でも、毎日お経を聞いている水だ〴〵と思うと、感謝の気持ちでおいしくいただけます。私は、もっと気を引きしめ、徳を積み、多くの方々に、お寺に足を運んでいただけるよう、三徳の実行に励んでまいります。



福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

児童養護
施設

名古屋養育院の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

三徳の精神で子ども達と向き合います

名古屋養育院 児童指導員 木村 綾花

私は『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで、法華経が親のない子、病気で苦しむ人、生活に困っている人々を助け、幸せに導く教えだという内容が印象に残っている。また修学先生は杉山辰子先生と出会い、この教えに基づき、さまざまな子ども達を支援していたことがわかった。どんな時も子ども達のことを最優先に考えており、不幸な人々に自分ができることを精一杯尽くしたことで、多くの人達から慕われていた。しかし、当時は弱い立場にある人々に対して差別や偏見などがあり、社会の理解は現在よりも少なかった。さらに罪を犯した少年や虐待を受けた子ども、戦災孤児、知的障がい児らとの

関わりの中で、さまざまな問題に向き合わなければならぬ。そのような時でも修学先生は不平や不満を言わず、すべての人の幸福をめざし、努力していたことを学んだ。子どもの接し方として、決して声を荒げることなく、温かく見守り、心の傷が癒えるまで優しく愛情を注ぎ、その子の良いところを見つけてはほめていたという。

私は今の自分が子ども達と日常生活の中で、どう関わっているのかを振り返ることができた。子どもをほめることよりも、注意することの方が多く日もある。なかなか思うように子ども達が動かない時がある。そのような時に、ただ単に子どもを叱るのではなく、なぜ動きたくないのか、原因や理由をしっかりと考えて、子ども達と向き合わなければならぬと感じた。

また、杉山辰子先生から法華経の内容を理解するだけでなく、日々の生活に応用しなければならぬことを教わった修学先生は、「慈悲・至誠・堪忍」を実行していたとある。この三徳は、子ども達を支援するにあたり、とても大切なことである。子ども達と向き合うことで、言い合いになったりすることもあるが、何でも言い合え

るということは、子どもに自分が信頼されていることでもある。施設で過ごしている子ども達の中には、心に傷を負っていたり、大人を信用していない子どもがいる。そのような子ども達に対して、どのように関わってあげばいいのか、今の自分にできることは何かないのかなど、支援の方法をしっかりと考えて、日々過ごしていきたいと思う。今回学んだ三徳について、子ども達に伝えられるよう努めていきたい。

子ども達の良いところをたくさん見つけます

名古屋養育院 児童指導員 竹本 諒太郎

この本を読み、日本福祉大学で学び、これから昭徳会でより社会福祉について学んでいくことができるということに感謝しなくてはいけないと強く感じた。

私は、大学の社会福祉実習を通じて「子ども達の成長や変化を間近で感じることができ、自分自身も子ども達とともに成長することができる」という点に惹かれ、児童養護施設で働きたいと思うようになった。修学先生は、

子ども達にとって父親的存在となつて働いていたということはこの本を読んで知ることができた。子ども達にどうしてどのような存在であるべきかということについては、人それぞれ考えがあると思う。しかし絶対に言えるのは、子ども達のために働く、ということである。本の中に「叱ることを避け、子どもの良いところを見つけてほめ、その後で教える。この順番を忘れないこと」と記されていた。人はどうしても相手の悪いところばかり気になつてしまう。実際に私自身も子どもとの関わりの中でマイナス面ばかりが目につけてしまう。それぞれの良いところは知っているつもりでも、その面にはあまりふれず、マイナス面にふれているのが現状である。しかしそれは子ども達と信頼関係を築くことができないし、良い支援が行えないと本を通じて気づかされた。「教える」ということは気持ちがお互いに通じ合わないと実現しない。相手のことを本気で思わないと相手には伝わらない。現在、私がしていることは自己満足であるということに気づかされた。今のままでは、いつになつても子ども達との信頼関係は構築されず、一方通行の支援にな

つてしまう。「子ども達のため」という最も大切なことが欠けている。信頼関係はすぐに構築されるものではなく、時間をしっかりと作り上げるものである。まずは、子ども達の良いところをたくさん見つけられるように努めていきたい。

私は、これまで何不自由なく生活してきた。修学先生のようになるのはむずかしいことだが、昭徳会で働く者として先生の教えのもと、少しでも近づけるようになりたい。そのためにはまずしっかりと仕事をすることは当然だが、仕事以外の面も見直しが必要だと感じている。今一度、自分の気を引き締め、仕事や日常生活を送ってきたい。

子どもに接する姿勢を学びました

名古屋養育院 児童指導員 橋本 健太

私はこの本を読んで、児童養護施設で働く者としても驚き、自分が子ども達に接している方法で良いのか。もっと子ども達のためになる接し方、支援の仕方が

あるのではないかと考えさせられることが数多くありました。

すばらしいと思ったのは、修学先生が罪を犯した少年達と行った農作業です。指示をするだけでなく、修学先生は自ら手本となり実際に行うことによって、わかりやすく教えていました。私自身も子どもに手伝いを頼む際には、自分自身が手本を見せなければいけないと思うのですが、他の業務もあり、なかなかむずかしいのが現状です。子ども達が思うように動けない時は自分でやってしまうことが多くあります。しかし、今回この本を読んでも、私の行動は将来一人で生活していかなければならない子ども達のためにはなっていないと思いました。そこで今は、頼んだことを子ども達ができない場合は一緒に正しい、子どもの能力を高め、達成感や、自分にもできるという自信を子ども達が持てるように行動しています。一緒に行動することで、子ども達と接することがより楽しくなり、話しやすくなりました。今後の子ども達の幸福な生活に向けた第一歩を踏み出せたように感じました。

私は、今回『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで、私自身の子どもに対する行動、支援者としての行動の大切さを改めて考えさせられました。そして、私は修学先生の行動を念頭に置きながら、今後子ども一人ひとりに対して、その子にあった支援を行いたいと思います。

子ども達の心の傷を癒せるような支援をしたい

名古屋養育院 保育士 酒井 侑作

この本には鈴木修学先生がどのようなことを行ってきたのが詳しく書かれています。18歳で家業の間屋を失敗してもくじけず仕事に励み、23歳の時に成功したにもかかわらず、自分の人生の意味に疑問を持ったのかと考えると考えさせられました。自分の成功だけでなく満足せず、探求心の強い方だと思いました。その後、杉山辰子先生と出会い、福祉の道を歩きました。人のためにすべてを投げ捨ててまで行動され、相当の覚悟を決めていらっしやっただと、強い意志を感じました。

ハンセン病療養所では、夫婦で働いておられました、

「当時「不治の病」と言われていたのに恐ろしくなかったのだろうか。感染に対する不安はなかったのだろうか」と、修学先生の信念には胸を打たれます。36人の生活費のために質屋に通うなど、寄付を受けるまでは相当の苦勞をされたのだと思います。みつ夫人が二度も自殺を考えたということは、精神的にも肉体的にも辛かったに違いありません。そのような状態でも弱者を救う任務に耐え抜くことができるのはなぜだろうと思いました。

この本には名古屋養育院のことも書かれていました。戦争中、空襲によって被災した養育院の修復を依頼されたとのこと。修学先生が引き受けてくださらなかったら、今の養育院はなかったのです。

また、修学先生は音楽やスポーツなどさまざまなことを取り入れ、子ども達に楽しみを与えていたようで、感銘を受けました。

ある子が自分の小遣いを貯めて「母と父を買う」と言って位牌をもってきた「小遣いの話」はとてもせつなく、悲しい気持ちになりました。現在も、みな事情はさまざまですが、心に傷を抱えて生きている子ども達がいま

体の傷は治ることはありますが、心の傷は一生残ってしまいます。だからこそ、その子に合った支援で傷を少しでも小さくできるように努めていきたいです。言葉の力は強いので、自分の発言に気をつけようと思います。

子どもに寄り添う支援

名古屋養育院 保育士 夫馬 花菜子

私はこの本を読んで、子どもに寄り添うことを大切にしたいと感じた。

鈴木修学先生は、児童養護施設で子どもに関わる時、常に自ら行動して手本を見せていたという。すると、初めは全く話を聞いてくれなかった子ども達が、次第に修学先生とともに作業を行い、心を開いていった。注意や指摘ばかり、怒ってばかりでは、子どもの心の中に反発心を芽生えさせるだけだが、自分が手本を見せることで、子どもの警戒心を解くことができ、子どもとの関係づくりもしやすくなることを学んだ。そして、手本を見せることが子どもに寄り添うことの一つではないかと感

じた。

では、実際の現場で、手本を見せることができてい
るかと自分に問うと、正直そうではない。多くの業務や
時間に追われ、特定の子どもではなく複数の子どもを一
度に支援していることで、一人ひとりにかける時間が十
分に設けられず、注意、指摘、怒るといったことで終わ
らせてしまっているのが現状である。

しかし、私が本当にそのような支援をしたいかとい
うと決してそうではない。私も、修学先生のようにもつと
子どもに寄り添える職員になりたいと思っている。その
ため、自分に何ができるのかを考え、自分なりにできる
ことを精一杯行いたいと思う。また、子ども一人ひとり
にかける時間を十分に確保するための方法を考え、余裕
を持って支援に当たれるようにしたいと思う。子どもに
寄り添い、子どもとの良い関係づくりをめざしたい。

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・800円(税別) 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

児童養護施設 名古屋養育院

●愛知県名古屋南区呼続4-26-37

●入所定員53名

●職員 正職員31名、パート職員12名

- 児童指導員(児童福祉分野) 児童福祉施設において、児童の生活指導を行う。次の任用資格が必要。①地方厚生局長の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設を卒業した者。②大学の学部で、心理学、教育学又は社会学を修め、学士と称することを得る者。③小学校、中学校、高等学校の教諭の資格を有する者。④高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事した者。⑤3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者。具体的な進路としては、4年制の福祉系大学を卒業するか、大学で、心理学、教育学、社会学を専攻し、児童指導員任用資格を取得することが一般的。
- 保育士(児童福祉分野) 児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。

※本稿は平成30年7月にいただきました。(掲載順不同)

卒院生の集いを開催



写真提供・昭徳会

児童養護施設・名古屋養育院
～色々なことにぶつかりながら生きている卒院生に励まされ～

平成30年度の「卒院生の集い・はぐるま会」を1月19日に名古屋養育院内の多目的ホールで開催いたしました。今回の参加者数は、OB児童（途中退所児含む）22名、OB児童のご家族8名、OB職員4名、在院児童24名、現職員6名の、計64名でした。

何年かぶりに会うメンバーや、毎年来ているメンバー等、年齢もさまざまなOB児童が集まりました。懐かしい顔ぶれに、笑顔の輪が広がっていました。緊張してなかなか大きな声で発言できない子どもが多かったのですが、一人ひとりに自己紹介してもらい、在院生は学年と名前を紹介しました。時々職員が助け舟を出して、「部活を頑張っています」、「受験生で〇〇高校をめざしています」、「〇〇に就職が決まりました！」等、それぞれの現況を伝えると、拍手されたり歓声が上がったりしていました。OB児童には、それぞれの近況と在院生にひと言お願いしたの

ですが、こちらもなかなかの引っ込み思案が多く、名前だけ言われる方がほとんどで、それでも中には在院生に向けて励ましの言葉を言うってくださる方もいて、表には出さずともじっとその話を聞いている在院生が印象的でした。

今回、在院生やOB児童がそれぞれで固まらないよう座席を考え、これまで以上に交流してもらえるようにしました。最初は他人行儀だった。在院生も、徐々にOB児童と交流するようになり、恥ずかしがりながらも話している姿が見られました。自分の親世代のOB児童の話を真剣に聞いたり、世代的に近いOB児童と当時のことを懐かしんだり、各テーブルごとで話が弾んでいました。中には、職員に近況を語るだけでなく、仕事のことや家族のこと等、現在抱えている悩みを相談しているOB児童もいました。その様子は、在院時に学校のことや人間関係で悩んでいた時に、職員に相談していた風

景そのまま、その姿を見ると、[〃]いつになっても児童と職員の関係は変わらないんだな[〃]と実感しました。

「家庭」というものを知らずに施設に入り、18歳になって社会に出て、縁あって結婚し家庭を持ち、いざ自分が親になるということが、どれ程不安で未知の世界であるのか。それでも踏ん張り、色々なことにぶつかりながらも生きているOB児童達を見ていると、[〃]我々職員ももっと頑張らなければいけない[〃]と思わされます。平均勤続年数が5年と言われる児童養護の世界ですが、OB児童が戻ってきてくれた時に、[〃]ああ懐かしいな[〃]と思ってもらえるよう、少しでも長く働き続けたいと思います。また来年度も多くOB児童が参加してくれることを願いつつ、日々頑張っていけます！

児童養護施設・名古屋養育院

グループリーダー（児童指導員） 山口 浩幸

学内プレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD 2018」開催

日本福祉大学



写真提供・日本福祉大学

グローバル化が進むこれからの社会を生きる学生達には、多様な価値観を持つ人々と積極的に交流し、違いを認め合いながら、協力して課題解決にあたる姿勢と能力が、これまで以上に求められています。

そのための手段として、「プレゼンテーション」は不可欠となっています。

聞き手の理解や納得を得るため、ICTを活用して、自分の考えや課題解決に向けての方策を簡潔にまとめ表現する「プレゼンテーション能力」の育成に、各大学とも授業や、その他さまざまな場面を活用して取り組んでいます。

本学でも、学内プレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD(日本語訳:賞)」を開催し、学生達はチャレンジの場として、このコンテストに参加しています。4回目となる今年は、1月29日(火)に東海キャンパスで開催しました。

グローバルラウンジでアシスタントを務める学生が

司会進行を担当し、応募55作品の中から最終審査に残った8作品（英語部門4作品・日本語部門4作品）が、発表されました。応募は個人でもグループでも可能で、今回は個人1作品・グループ7作品となりました。

「地域に根ざし、世界をみざす『ふくし』の学びを伝えよう！」をテーマに、授業や課外活動で経験したこと、学んだことを題材にして、自分の思いや考えを、多くの人に共感を持ってもらえるように届けることができているのかを競いました。英語部門はネイティブの教員が、日本語部門は日本人教員が審査員を務めています。

学生達は発表に向けて練習を積み重ね、当日を迎えました。しかし、緊張のあまり覚えてきた発表内容が抜けてしまい、ほかのメンバーがカバーしたり、ネイティブの教員からの英語の質問に苦闘したりと、アクシデントもチームで協力し合って乗り切っていました。今年の英語部門の大賞は、国際福祉開発学部4年の男子学生。『ホームレスの問題をソーシャルビジネスの活用によって解決する方法』について自らの考えをまとめ、2年連続の受賞となりました。

日本語部門の大賞は、社会福祉学部1年生のグルー

プでした。発表のタイトルは「子どもの『自立』とは？」。児童養護施設で過ごした3日間を通じて、

児童養護施設で子ども達と2泊3日生活をともにした経験をもとに、子どもの自立について考察した内容です。施設の職員の方へのインタビューなども交え、自立の定義や自立支援のあり方について、実践を通じて自分達の考えを導きだしたプロセスも評価され、大賞受賞となりました。1年生の大賞受賞はコンテスト初のことです。「今後は、子ども達の自立に、地域の特色がどのような影響を及ぼすのか」を研究していきたい」と展望も語ってくれました。

本学では、学部を越えて本学学生すべてに身につけてほしい資質・能力を、『日本福祉大学スタンダードⅡ4つの力（伝える力・見据える力・関わる力・共感する力）』として示しています。プレゼンテーションの場面でも、この4つの力がどれだけ身についているかが問われることとなります。

コンテストで学生達が語ってくれた「今後の展望」に向けて、日々着実に取り組んでさらなる成長を遂げてくれることを、大いに期待しています。

全学教育センター長 中村 信次



幸せの種まき 感謝と親切

常に親切と感謝の心で

人に接し

徳の人となりましょう

理屈なしで、親切で、黙って一生懸命働く人は
知らぬ間に「良い人だ」と言われるようになります

大乗山 法音寺



編集後記

「家族がいなくても、社会ともつながりがない人がいれば、早晩、葬儀の意義を問われる時代がやってくる。(中略) 遺族も参列者もおらず、葬儀をする意味を見出せない場合、どんな対策を取るべきだろうか」(『仏教タイムス』記事より)

厚生労働省の調査をもとにした前述の記事によると、高齢者の6割がすでに独居か、独居化する可能性があるとのこと。また、これからは結婚経験のない人がどんどん亡くなる時代が到来するそうです。高齢化が進む中、「無縁死」は社会的に深刻な問題であるにもかかわらず、いまだに具体的な対策は立てられていません。

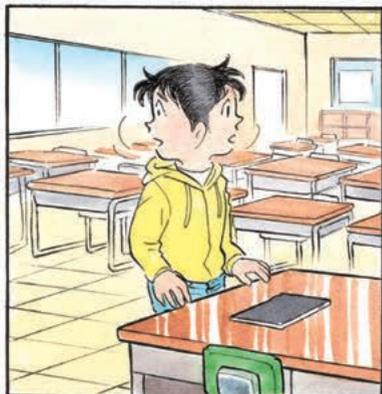
やはり、世の人々は葬儀や法事だけのつながりではなく、信仰によってしつかりお寺とつながる必要があるのだと思わされます。お寺に参詣すれば、ご法話を聞くことができ、その結果、仏さまの教えを実践することで穏やかな生活を送ることができ、また多くの法友との交流ができます。

法音寺にご縁をいただいている私達にとって「無縁死」は、自分達の問題として心配する必要のない問題かもしれません。しかし、一人も無縁死にはさせない、という意識を持つて、人々を導くことが求められるのではないのでしょうか。そのために、この「法音」がしっかりとその役割を果たすことができたらどんなにいいでしょう。

はんしや　こころ 反射する心

竹中 淳







蓮くん
まだ
いたの？



これがえんま帳か…
いったい、ボクのこと
なにが書いてある
んだろう



フフフ…
えんま帳？
へー
今でも
いうんだ



えんま帳じゃ
ないのか…



あら
やだ
日記 ここに
置き忘れてたのね



自分の姿は
鏡に映るけど
性格や心までは
映らないよね
でもね
ちゃんと映して
くれるものがあるのよ
なにかわかる？



人って
他人から
どう思われてるか
気になるもんね



これを
えんま帳だと思って
見ようと思ったの？
…まだ
見てません



へ？



それは
周囲の人よ

蓮くんなら
クラスの
友達かな…



なんでボクが
友達に映るの？
なにそれ？
わかんないよお



蓮くんが
親切にしている友達は
蓮くん
親切でしょ？

…うん
そうかも…



人は誰でも 自分に親切な
人に対しては思わず親切に
してしまうんだよね



蓮くんの親切が
友達からの親切として
映しだされる

親切が反射するんだね
反射するのは
親切だけじゃないよ

自分にいじわるな
人に対しては つい
いじわるなことにちやう
でしょ？ 蓮くんの
どんな思いであろうと
友達 は 正確にその思いを
反射してくれるの



人から自分が
どう思われて
いるかは
友達を見れば
わかる！
友達 は 自分を
映す鏡なのよ

ボクは友達^{ともだち}の顔^{かほ}を
思^{おも}い^いう^うか^かべ^べて^てみ^みた

い^いつ^つも^も忘^{わす}れ^れる^るも^もの^の
を^をし^した^た時^{とき}助^{すけ}け^けて^て
く^くれ^れる^る ひ^ひろ^ろみ^みち^ちゃ^ゃん

困^{こま}った^た時^{とき}い^いつ^つも^も
た^たよ^より^りに^にな^なる^る
タ^タケ^ケル

勉^{べん}強^{きやう}を^をよ^よく
教^{おし}え^えて^てく^くれ^れる^る
ユ^ユカ^カち^ちゃ^ゃん

シ^ショ^ョウ^ウク^クん^んは
自^じ分^{ぶん}の^のこ^こと^とほ^ほう^うつ^つて^て
お^おい^いて^てで^でも^も
手^て伝^{でん}つ^つて^てく^くれ^れる^る

わ^わあ^あ こ^こん^んな^なに^にた^たく^くさ^さん^んの^の
友^{とも}達^{だち}に^に親^{せき}切^ぎに^にし^して^て
も^もら^らつ^つて^てる^るん^んだ^だ!

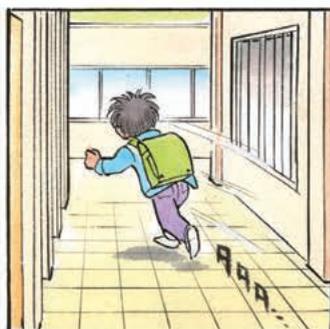
み^みん^んな^なが^が喜^{よろこ}ん^んで^で
く^くれ^れる^るよ^よう^うな^なこ^こと^と
何^{なに}か^かボ^ボク^クに^に
で^でき^きな^ない^いか^かな

自^じ分^{ぶん}に^に親^{せき}切^ぎな^な人^{ひと}に^には^は
思^{おも}わ^わず^ず親^{せき}切^ぎに^にし^して^て
し^しま^まう^うん^んだ^だね

あ^あ 先^{せん}生^{せい}!
先^{せん}生^{せい}の^のい^いう^う
と^とお^おり^りだ

周^{しゅう}圍^いの^の人^{ひと}が^が
自^じ分^{ぶん}の^のこ^こと^とを^を
ど^どう^う思^{おも}つ^つて^てる^るか^か
気^きに^にす^する^るよ^より

優^{やさ}しい^い心^{こころ}で^でい^いれ^れば^ば
知^しら^らな^ない^いう^うち^ちに^に周^{しゅう}圍^いは^は
優^{やさ}しい^い友^{とも}達^{だち}で^でい^いつ^つば^ばい^いに^に
な^なつ^つて^てい^いく^くん^んじ^じゃ^ゃな^ない^いか^かし^しら





翌朝





おしまい

書籍のご紹介

法音寺を
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均九六頁総カラゝ

定価各巻一、〇〇〇円(税別)

法音寺の教えを
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三四五頁

定価一、〇〇〇円(税込)



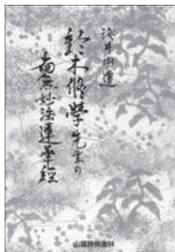
続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三五二頁

定価一、〇〇〇円(税込)

仏教を
学びたい方へ



鈴木修学先生の
南無妙法蓮華經

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判/二百二頁

定価一、八一四円(税込)



妙法蓮華經略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版/八六三頁

定価六、〇〇〇円(税込)

福祉を
学びたい方へ



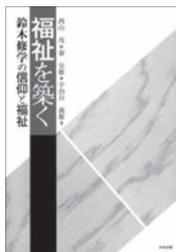
日本の福祉を築いた
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版/一六八頁

定価八六四円(税込)



福祉を築く

西山茂・秦安雄／
宇治谷義雄著

中央法規出版刊

A5版/二二三頁

定価三、六二八円(税込)



知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市長和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム

慈か 泉り 寮ん

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10 TEL (052) 831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL (0569) 87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成31年3月号・No.593・平成31年3月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社